



知床科学委員会 しんぶん

河川工作物 アドバイザー会議 No.8



「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダム改良工事や遡上調査について助言をしています。しんぶんでは、その活動についてタイムリーな情報をお伝えします！

今回の会議

平成27年1月29日に今年度2度目の会議が、札幌市中央区の北農健康会館にて開催されました。

今回話したこと

- ①世界遺産委員会決議に係る保全状況報告について
- ②イワウベツ川、サシルイ川、チエンベツ川、ルシャ川、羅臼川の遡上モニタリング結果について
- ③オショロコマ生息等モニタリング調査結果について
- ④長期モニタリング項目の評価について
- ⑤今後のダム改良について

構成メンバー

- | | |
|-----------|----------------|
| 中村 太士【座長】 | (北海道大学 教授) |
| 帰山 雅秀 | (北海道大学 特任教授) |
| 小宮山英重 | (野生鮭研究所 所長) |
| 妹尾 優二 | (流域生態研究所 所長) |
| 丸谷 知己 | (北海道大学 教授) |
| 河川 洋一 | (徳島大学 准教授) |
| 谷口 義則 | (名城大学 准教授) |
| 山中 正実 | (斜里町立知床博物館 館長) |
- ※オブザーバーとして参加して頂きました

会議で話しあったことは?

ダム改良効果検証モニタリング

改良が終わったダムについて、サケ類がどれだけ遡上しているか、産卵しているかについて、継続して調査を行っています。

イワウベツ川、チエンベツ川、サシルイ川、ルシャ川、羅臼川の5つの川でのモニタリング調査の結果、今年度はカラフトマス、シロザケともに来遊数が少なかったこともあり、ほとんどの河川では改良ダムの上流までの遡上は少ない結果でした。また、ルシャ川では一部のダムの落差が拡大し、シロザケの遡上に障害が生じていました。

オショロコマ生息状況の長期モニタリング

気候の変化が知床の生き物にどのように影響するかを調べるために、水温変化に敏感なオショロコマの生息状況についてモニタリングをしています。

今年は37河川で水温を観測し、その内の8河川でオショロコマ生息数の調査が行われました。水温が高い河川ではオショロコマが少なく、成長にも影響している可能性があることが報告されました。

これから改良を行うダムについて

昨年度、先行的に改良を行うことに決まった「オッカバケ川」「モセカルベツ川」の2河川3基のダムについて、検討中の改良方法の説明のほか、地域に住む方たちとのダム改良に関しての意見交換の内容についても報告が行われました。

また、35基の「第2次検討ダム」については、ダムが魚に与えている影響などを調査・整理し、どのダムを改良するのか検討を行うこととなりました。今年の秋から対象となる河川の現地視察等を行い、第2次検討ダムの検討を開始します。



▲知床岬近くのモイレウシ川の調査風景



▲1月29日に行われた会議の様子

